

Thyme

大分県教育庁 別府教育事務所
授業改善窓口通信 第2号
令和3年8月20日（金）発行
文責 福田 美和
TEL (0977) 67-7511

子ども達の成長を願う先生方の声

お盆を過ぎ、学校では新学期に向けた準備を始めていらっしゃると思います。

第1号でお知らせした「授業改善窓口」の活用により、5月～8月には様々な学校に訪問して、先生方とお話しさせていただく機会を得ました。前号に引き続き、相談内容の一部をご紹介します。

校長先生から 「研究主任の困りを聞いてもらえますか？」

別府教育事務所管内の複数の学校が、様々な研究指定を受けています。指定を受けた学校では、先生方が協議と実践を重ねながら、試行錯誤の中で研究を重ねて来られたことでしょうか。新学期に向けて新しい取組を始めるにあたり、校内研究の中心的存在である研究主任の支えになってほしい、という校長先生からのご相談がありました。

研究主任の先生から 「学期初めに校内で提案する内容を整理したい。」

上の例と同様に、研究主任の先生方はこれまでの実践を振り返り、成果と課題を整理しておられます。新学期の研究内容を提案する際には、校内の先生方の理解を得ることが必要です。その根拠となる数値データや見取りをもとに、「この分析は妥当かな？」と悩みながらも、前へ前へと進まれる姿に出会うことができました。

地区教科部会の担当者から 「いっしょに単元計画をつくってほしい」

市の教科部会に集まった先生方と、ある学校のあるクラスを例に、単元計画をつくるワークショップをしました。「何ができ、何ができないのか」という生徒の実態をベースに「この単元でどんな力をつければよいのか」を話し合い、単元のねらいを定め、単元のめあてをつくっていきました。子どもの姿を常に思い浮かべながら、指導計画を練る大切さを再確認しあうことができました。

一人の先生から 「こんな指導案とテストをつくってみたのですが。」

10月に実施予定の指導案と、その単元を指導した後に行う単元テストが送られてきました。「どんなテストを作成すれば、生徒の力を測ることができるのだろうか」と常に自問自答し、子どもたちの可能性を引き出す授業を模索する先生の姿に、エネルギーをいただいた気がします。

※「授業改善窓口」へのご相談は、どんな内容でも構いません。日々の授業で困っていること、授業について知りたいことがございましたら、お気軽にご相談ください。

【通信のタイトルについて】

Thyme（タイム）はシソ科の植物です。油と一緒に加熱すると香りに移りやすく、いろんな料理に使われます。また、熱を加えないマリネなどの料理にも重宝され、特に魚介類との相性が良いため、「魚のハーブ」とも呼ばれているそうです。